

令和4年度

奈良市地域教育推進事業に関するアンケート調査

(報告書)

令和5年5月

奈良市教育委員会事務局 地域教育課

＜調査内容＞

1. アンケートの趣旨

本市では、平成23年度より「地域で決める学校予算事業」と「放課後子ども教室推進事業」を奈良市地域教育推進事業に位置付け事業を展開している。

これまでの事業に対する成果と課題を把握し、次年度の事業に生かすことを目的として、各地域教育協議会及び各学校園に対してアンケートを実施する。

2. アンケートの対象

中学校区地域教育協議会会長(21協議会)

総合コーディネーター(21協議会)

代表コーディネーター(98委員会)

各学校園(管理職及び地域連携担当教員)(98校園)

3. アンケートの実施期間

令和5年1月30日～令和5年3月3日

4. 調査内容

- ①現在の職・立場について
- ②活動する中で感じた効果について
- ③紹介したい取組や自慢の取組、新たな取組等について
- ④他団体や企業等と連携して行った活動等について
- ⑤活動する中で感じた課題について
- ⑥課題を解決するために必要なことについて
- ⑦管理職以外の教職員の事業の認知度について(学校園のみ)
- ⑧やりがいや満足度について(地域のみ)
- ⑨管理職以外の教職員との関わりについて(地域のみ)
- ⑩今後特に必要と感じる地域教育課の支援について
- ⑪今後取り組みたい活動やアイデア等について
- ⑫その他事業に関するご意見

5. アンケートの回収

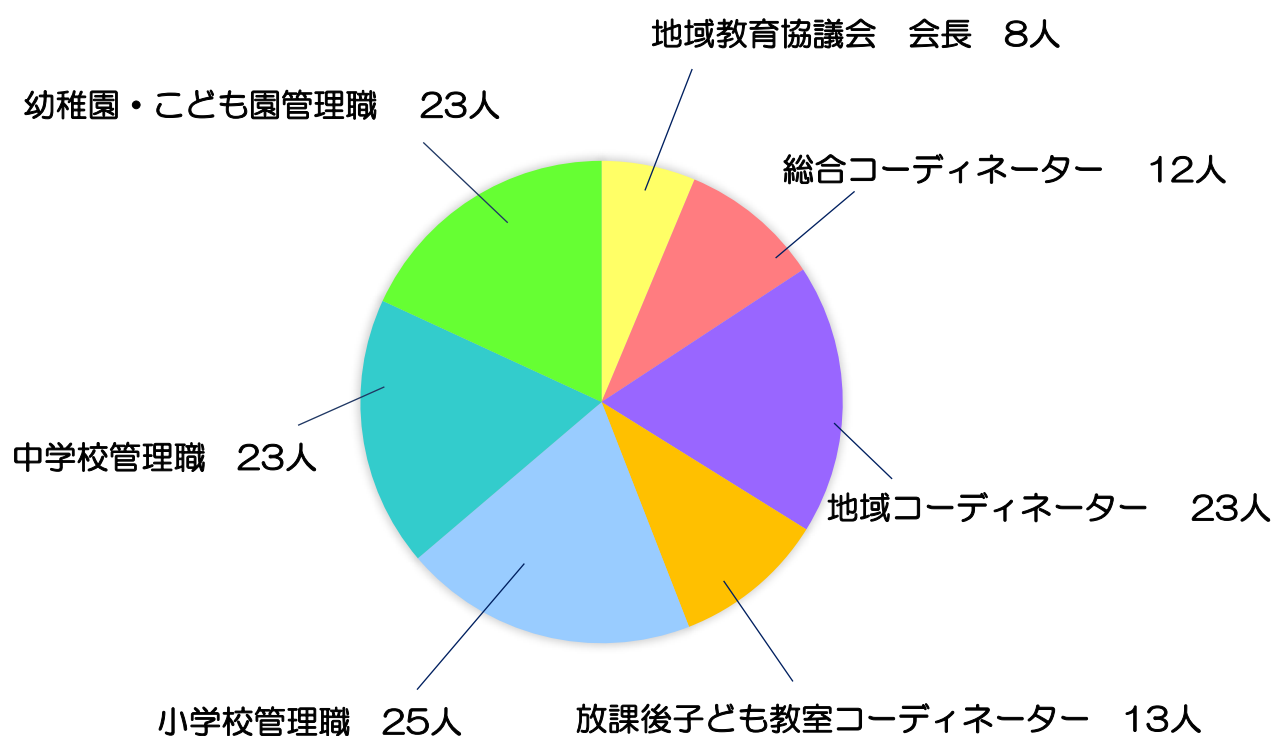
127件の回答

令和4年度 奈良市地域教育推進事業に関する アンケート調査結果

① 現在の職・立場について

【回答数】127件(地域56件・学校園71件)

昨年度 142件(地域76件・学校園66件)



② 活動する中で感じた効果について（複数回答）

地域と学校園の双方とも「子どもたちの体験や経験の場が増えた」という回答が最も多く、子どもたちに対して効果を感じているという回答が上位を占めていた。また、地域は「地域住民のつながりが生まれた」、学校は「家庭や地域の学校に対する理解が深まった」という回答が多かったことから、事業を通して学校を核とした地域づくりが進められていることが見受けられた。

項目	地域（回答者数56人）		学校（回答者数71人）	
	回答数	割合	回答数	割合
子どもたちの体験や経験の場が増えた	45	80%	65	92%
子どもたちの規範意識、社会性の向上につながった	28	50%	31	44%
子どもたちのコミュニケーション能力が向上した	17	30%	31	44%
子どもたちの学習意欲が向上した	16	29%	28	39%
子どもたちの地域に対する理解や愛着につながった	21	38%	49	69%
教職員の負担が軽減された	8	14%	18	25%
教職員が地域連携に対する必要性を感じるようになった	20	36%	30	42%
教育環境や教育条件の改善につながった	6	11%	22	31%
家庭や地域の学校に対する理解が深まった	17	30%	37	52%
地域や家庭による学校支援活動が活発になった	12	21%	27	38%
地域住民のつながりが生まれた	21	38%	29	41%
その他（自由記述）	3	5%	1	1%
	214		368	

回答数が上位3位までの項目

順位	地域			学校		
	項目	回答数	割合	項目	回答数	割合
1	子どもたちの体験や経験の場が増えた	45	80%	子どもたちの体験や経験の場が増えた	65	92%
2	子どもたちの規範意識、社会性の向上につながった	28	50%	子どもたちの地域に対する理解や愛着につながった	49	69%
3	子どもたちの地域に対する理解や愛着につながった	21	38%	家庭や地域の学校に対する理解が深まった	37	52%
	地域住民のつながりが生まれた	21	38%			

【その他（自由記述）】 ※同じ内容の回答はまとめさせていただいております。

〈地域〉

・地域あつての活動ができたと思います。

学校だけでは行えない行事を行うことで、先生や生徒達にとっても豊かな活動にはなったと思います。

・地域の方と一緒にものを作ったり、体験したりして、普段接しない大人とかかわることでコミュニケーションの仕方や作品が完成したことでの達成感を感じていることがみられたから。

地域の方々に当日のボランティアをしてもらうことで、地域の人通しのつながりにもなっていたから。

〈学校〉

・今年度から、保育園の玄関に地域の方の写真を貼り、地域の方をより身近に感じられるようにしている。

地域の方が、来てくださり、季節の行事を楽しむことで、一人じゃないんだよという気持ちや、周りにいつも笑いかけられる大人の人がいるということもすごく子どもたちにとって心強いことだと感じている。

③ 紹介したい取組や自慢の取組、新たな取組等について（自由記述）

※同じ活動の回答はまとめさせていただいております。

【学習支援】

- ・学習支援として数学と英語で習熟度別授業を行うことができた。
- ・「みんなの学習クラブ」を活用することでタブレット端末を活かした学習活動支援事業の充実につながった。また、年2回の漢字検定を地域も参加して実施した。
- ・主に図工と家庭科のサポートで、図工ではカッターナイフ・彫刻刀・のこぎり・糸のこ、家庭科ではミシン・調理実習の授業の安全見守りをおこなった。

【図書ボラ】

- ・ビブリオバトルの開催。
- ・地域の図書ボランティアによる図書室整備事業など

【キャリア教育】

- ・中学校で実施のキャリア教育(2年「未来地図の描き方発見プログラム」、3年「社会で自分を活かすための自己理解(面接体験)」)

【郷土学習】

- ・世界遺産学習を地域の方と共に行っていること。
- ・平城東中学校区全体活動では、2022年11月の「歴史ウォーク」に120名、2023年の「わくわくフェスティバル in 奈高」に1000名の参加を頂いた。
- ・郷土学習「ふるさと発見ウォーク(3)」
- ・校区にある“ならまち”を、地域の方に交通安全指導や案内をしていただきながら“ならまちたんけん”を行い、自分たちの住んでいる町を知り、関心を深めるきっかけになった。

【体験事業】

- ・蜜蝋体験、しめ縄づくり、大とんど
- ・コロナ禍でできなかった雅楽鑑賞が行えた。
- ・コーディネーターの紹介により、多様な方がたの講演会を開くことができ、人の生き方も多様なんだということを伝えられた。
- ・「生徒たちに本物との出会いを！」をテーマに開催したオーケストラ公演会
- ・地域人材とのつながりを大切に、日本伝統文化との出会いを意図した「日本舞踊鑑賞・体験公演会」の開催
- ・地域の方が竹の伐採、稲わらの手配運搬をしてくださり、日本の伝統文化を子どもたちに教えてくれた。地域、保護者の方も多数参加できた。
- ・田植えや稲刈り体験と学び
- ・ケナフ体験・昔遊び
- ・赤膚焼体験学習(5年)
- ・大柳生太鼓踊りは、昨年度よりも練習回数を増やし、また、成果発表会に地域の方を少人数ではあるが呼び出して行うことができ前進であった。新たな試みとして、音楽の授業で地域の方をお招きして「民謡教室」を開催した。今後とも継続して行くことができれば幸いである。
- ・第三幼稚園から引き継いだ活動を中心に行ってきた。地域の講師を招聘して子どもたちが活動に参加することで、豊かな経験をし、心身ともに成長につながった。今年初の取組としては、味噌づくりを行った。一人一人がビニールに入った豆をつぶす作業に取り組み、地域の方にも手伝ってもらい、豆から味噌ができるという食育にもつながる活動を共有できたことが良かった。

- ・今年度は、「ヒツジ見学」「登美ヶ丘わいわいフェスタ 2022」「親子陶芸」等、新たな感動体験事業を通して、地域の方々と関わりのふれあいが増えた。
- ・地域のお茶の先生に来ていただいたの、年4回のお茶会をおこなっています。継続的にして頂く事で、礼儀や作法について知る機会でもあり、大切さも理解していっているように思います。また、小学校でも同じくお茶会をおこなってられるので、繋がっていると感じます。
- ・蚕を卵から育て、毎日世話をすることで愛着をもつことができた。繭になるには蚕の命をいただかなくてはならないことを知り、命に対して真剣に向き合い、尊いものであることを再確認しました。またコロナ終息への思いを込めて、蚕の力をかり繭になる時に出す絹糸を格子状になるよう土台をつくってマスクを作成しました。それをもって自分達の住んでいる町にある喜光寺に奉納することができました。
- ・新年を祝うお茶会では、地域の方の琴やフルートの生演奏を聴いたり、お茶の先生のお点前を拝見し、子ども達も自分でお茶を点ていただいたりして、日本の文化やお茶の心にふれる体験をした。
- ・陶芸教室、生花教室を行い、花器作りから生け花まで一連の工程を体験している。
- ・押し花体験は地域の方が色々な花を押し花にして、子どもたちにカードを作らせてもらった。こどもたちは工夫してオリジナルのカードを作っていた。
- ・凧づくり教室では本格的な凧づくりをして、風がなくてもよく上がる凧を作ることができたのがよかった。
- ・ポッチャ、むかし遊び、おもしろ実験

【栽培活動】

- ・自園の畑を、昨年度実際に耕してみて近隣のこども園は、ミミズが多く、自園にミミズがないことに気付き、畑の野菜にはミミズはいた方が育ちがよいため、近隣のこども園にアポを取りその園からミミズを沢山持ってきてくれた。そのおかげで、野菜が元気に育った。
- ・地域の方とのさつまいも栽培
- ・もち米づくり
- ・新たな取組として中学生の有志と大根を栽培し、保存食としてたくあん漬けを作った。

【防災・防犯】

- ・さわやかフェス 2022
- ・防災教育「富雄子ども防災チャレンジ」

【環境整備】

- ・花いっぱい運動
- ・アルミ缶回収活動
- ・6年生の校区ゴミ拾い
- ・園庭の遊び場の環境整備として、地域の方と一緒に芝生植えを行った。子ども達が地域の方と共に、土づくりから行い、一緒に芝を植えた。夏ぐらいにはしっかりと芝も根をはり、秋には虫取りや芝生の植えに寝転がってころころ転がって遊ぶなど、楽しむことができた。

【その他】

- ・地域の方と校区の小中学校の教員が合同で、参集とオンラインのハイブリッド形式での研修を行った。
- ・地域との熟議を通し、今年度から子ども参加型に変更し実施した、地域まつり「飛鳥フェスティバル」の再開
- ・音声館による大紙芝居、獣医師会による命の授業、助産師会による命の授業、リクシルによる家庭科出前授業
- ・地域の活動で、漢字検定を行った。
- ・「こども未来会議」という小中の児童生徒の代表者が地域の取組として希望することを持ち寄った会議をオンラインで行ったこと。

- ・校区の企業の協力を得てふれあい文化祭を開催したこと。
- ・当園は、令和4年9月18日に創立50周年を迎えた。50周年記念事業を「おめでとう 六条幼稚園」とし、奈良市観光大使の氷置 晋さんとイメージキャラクターのぴよっきーを迎え保護者と、園にゆかりの深い地域の方と一緒に記念コンサートを開催しみんなで六条幼稚園の50歳のお誕生日をお祝いした。コンサートの後は運動場で、子どもたちはドローンの操縦体験を大人たちは、セグウェイやキックボードの体験乗車を楽しんだ。
- ・伏見祭を実施した。オープニングでこども園のバルーンをお願いしとても盛り上がっていた。このサポーターとして、中学生や高校生、20人程度お手伝いに来ていただいた。
- ・学区ブランド産品(富より団子)の継続取組。
- ・わくわくフェスティバル in 奈高。中学校区内にあった平城高校との取組が奈良高校へ引き継がれた取組。コロナ感染状況により延期してきたが、今年度3年ぶりに活動再開することができた。異年齢の子どもたちが「スタッフ・お客さん」それぞれの立場で交流することができた。開催当日は多くの人々でにぎわった。
- ・「ベルマーク備品獲得プレゼンテーション」(中学生)
- ・コロナで地域の祭りが中止になる中、「とみきた子どもまつり」を開催した。子どもたちが一から企画してお店を作り上げ、たくさんにお客さんに楽しんでもらえた。普段、学校生活にあまり順応できていないと思われる子どもたちも企画側で参加し、作り上げる喜びを感じていた。その後に学校生活においても態度の変化が見られ、成長を感じることができた。

④ 他団体や企業等と連携して行った活動等について（自由記述）

※団体で同じものは、まとめさせていただいています。

団体名	活動名
ダイヤモンドテニスクラブ	テニス体験
特定非営利活動法人グラミーゴ奈良三笠	ドッジボール教室
コメリ緑育成財団	環境整備・植栽整備
自治連合会・自主防犯防災会など	防災訓練・防災教育
奈良市北消防署	防災教育
村田製作所 近畿日本鉄道 シャープ特選工業 ぷろぼの3R マテリアルセンター 奈良の鹿愛護会 サン薬局 奈良信用金庫 他	キャリア教育
大学生派遣（奈良教育大学・天理大学・奈良県立大学・帝塚山大学）	学習支援（中学校）
奈良教育大学 小崎誠二准教授	合同（地域・教職員）研修
奈良教育大学 ESD/SDGsセンター	「春日山原始林」飛鳥探求プログラム
奈良大学 土平博教授	郷土学習
自治連合会 公民館 社会福祉協議会 社会福祉団体	放課後子ども教室 土曜活動 防災活動 防災教育
放課後 NPO アフタースクール	みんなのアフタースクール（オンラインを活用したゲーム）
月ヶ瀬梅寿会連合会	梅寿会との交流会
地域趣味グループ	交流活動（和太鼓・押し花・お茶体験など）
アンキッキ協栄株式会社	富より団子学区ブランド産品
鼓阪子育てネットワーク	中学3年生の勉強会
ビーフォレストクラブ	バケツ稲作り（自然農法体験）
音声館	大型紙芝居
獣医師会・助産師会	いのちの授業
リクシル	家庭科出前授業
奈良・人と自然の会	農業体験
電子自治体アドバイザークラブ	クラブ活動（ICT、情報）、パソコン教室
平城ニュータウン楽しい理科実験研究会	クラブ活動（理科）
三共土地建物株式会社	木工教室
アンダンテ農園	ブルーベリー狩り

株式会社日本コスモトピア	学力向上・ICT 学習
バンビシャス奈良	バスケットボール教室
商工会議所(青年部)	キャリア教育派遣講師
奈良県立国際高等学校	高校生・外国人講師との交流
スミセイアフタースクール	キャッチボール教室
西奈良ロータリークラブ	ダンスクラブ・合唱クリスマス発表会・凧作りなど協賛
イオンモール学研奈良登美ヶ丘店	クリスマスイベント開催

⑤ 活動する中で感じた課題について（複数回答）

地域からは「事業に対するPTA・保護者・学校・教職員の理解、協力が不十分」の回答が多く、学校園からは「学校・教職員の負担増」の回答が多く、地域と学校園で課題の意識に差異が見られた。しかし、事業に対する理解が不十分とする回答は、地域と学校園ともに多かった。また、自由記述からは、「コロナの影響等もあり、地域と学校との連携が不十分」や「事務負担が大きい」、「担い手不足」等の課題が伺えた。

項目	地域（回答者数56人）		学校（回答者数71人）	
	回答数	割合	回答数	割合
事業に対する学校・教職員の理解が不十分	20	36%	19	27%
コーディネーターやボランティアの方々との連絡調整による教職員の負担増	8	14%	32	45%
土・日・祝日等の活動や会議による教職員の負担増	6	11%	17	24%
学校における活動拠点（地域ルーム等）の設置など受け入れ体制が不十分	4	7%	14	20%
学校の期待する活動内容が明確になっていない	13	23%	3	4%
コーディネーターと学校との連携が不十分	6	11%	8	11%
コーディネーターの研修や養成が不十分	5	9%	0	0%
コーディネーターの負担が大きい	16	29%	12	17%
ボランティアの負担が大きい	4	7%	6	8%
教育委員会と学校や地域社会との連携が不十分	6	11%	9	13%
学校支援活動について学校と地域が話し合う機会が少ない	11	20%	7	10%
事業に対するPTAや保護者の理解・協力が不十分	27	48%	7	10%
事業に対する地域社会の理解・協力が不十分	8	14%	7	10%
課題は感じなかった	2	4%	17	24%
その他（自由記述）	15	27%	3	4%
	151		161	

回答数が上位3位までの項目

順位	地域			学校		
	項目	回答数	割合	項目	回答数	割合
1	事業に対するPTAや保護者の理解・協力が不十分	27	48%	コーディネーターやボランティアの方々との連絡調整による教職員の負担増	32	45%
2	事業に対する学校・教職員の理解が不十分	20	36%	事業に対する学校・教職員の理解が不十分	19	27%
3	コーディネーターの負担が大きい	16	29%	土・日・祝日等の活動や会議による教職員の負担増	17	24%
				課題は感じなかった	17	24%

【その他(自由記述)】※同じ内容の回答はまとめさせていただいております。

＜地域＞

- ・地域で子供たちを育てると言う意識がまだまだ醸成されていないと思います。コロナのこともあって、学校との連携が取れず、お互い知り合うところまで行っていないのが現状です。
- ・働き改革の影響先生方の協力が得にくくなった。特に管理職の協力が得にくい。
- ・学校がどのようなことを地域にしてほしいのか、明確じゃないので、コーディネーターとして、どのように動けばいいか、わからないことが多かった。
- ・活動をしようと声をかけても、学校側から「こちらから連絡するまで、待っていて下さい」と言われ、コロナ禍を理由に特に連絡ももらえず1年が終わりました。
- ・先生と話す機会を増やせたらと思うが、忙しいのではないかと、遠慮してしまう。
- ・仕事を休まなければならないので、休めるメンバーしか仕事ができない。会計さんの負担がとて多い気がする。紙や印鑑、アナログな事務作業が多すぎる。備品・消耗品等まで自己負担してくれているコーディネーターさんもいる。(本人は負担に感じていない)
- ・地域コーディネーターが増えず減少傾向にあるため、事業はおろか活動が維持できるかも分からない。少ないために一人一人の負担が大きくなっている。
- ・地域の力が強すぎてやりにくいことが多々あった。こちらの要望を聞かずに暴走する地域ボランティアも多く、昔から関わっているため誰も止められないことがある。
- ・コムスクと地域教育協議会の違いや事業内容を保護者に理解してもらうのが難しい。
- ・地域教育協議会について、どんな団体か、どんなことをしているか、保護者が全く知らないもので、知ってもらえるようにしていきたい。
- ・コーディネーター研修や会議が、一定の時期にまとまって開催されるのは、参加しづらい。仕事を持っている人でも行きやすいように分散してもらえるとうれしい。
- ・次世代の育成、世代交代
- ・中々子供が小さかったりすると会議に行くこと自体とても負担でこの会議に行く為に子供を一人で家に待たせるなどと言う事態になっています。幼稚園のママなどからしたら平日午後からの集まりは難しく結局参加できていないのが現状です。
- ・コロナ禍の中での事業は不十分である。
- ・コーディネーターの人材が少なく、個々の負担が大きくなる。地域教育協議会の活動と、それ以外の地域連携の活動を合わせると、活動時間も長く、お仕事をされている方には難しい。来年度は、地域教育協議会の活動とそれ以外とを分担し、コーディネーターの負担が軽くなるように活動していく。
- ・ボランティアが集まらない。

＜学校＞

- ・コーディネーターの方との日程が合わず、連携がなかなか取れなかったことが反省です。
- ・今まで事業にかかわってくださってきた地域の方々が、高齢化に伴い辞されることが今年度続いている。代わりの方を探すだけでなく、これを機に事業の見直しも行ってきた。また、就労されている方が増え、コーディネーターをお願いできる人も少ない。高齢化や就労されていることの影響は大きいと実感しています。
- ・今年度より管理職が1名減ったため、会計書類に関わる業務をクラス担任も担うことになり、負担が増えてしまった。

⑥ 課題を解決するために必要なことについて（複数回答）

地域も学校園も、「教職員とコーディネーターの情報交換の充実」を課題解決に必要とする回答が多く、自由記述からも、地域と学校が連携して子どもたちを育てていくために、互いの意見を交換し、話し合いの場を設ける必要性が垣間見えた。その他上位を占める課題項目については、地域と学校園で意識や方向性に差異が見られる項目があった。

項目	地域（回答者数56人）		学校（回答者数71人）	
	回答数	割合	回答数	割合
教職員とCNの情報交換の充実	24	43%	23	32%
他校区のCNとの情報交換の充実	7	13%	3	4%
学校園の教育方針等についての意見交換の機会の充実	14	25%	5	7%
年間を見通した事業の計画	8	14%	13	18%
学校園における活動拠点（地域ルーム等）の設置などの受け入れ体制の充実	3	5%	16	23%
事業に関する広報（広報誌やWebページ）の充実	15	27%	6	8%
地域教育協議会等主催の教職員を対象とした報告会や研修会の充実	10	18%	8	11%
地域教育協議会等主催の保護者を対象とした報告会や研修会の充実	15	27%	3	4%
地域教育協議会等主催の地域住民を対象とした報告会や研修会の充実	10	18%	6	8%
教育委員会主催の研修会の充実	2	4%	3	4%
教育委員会からの情報発信の充実	8	14%	7	10%
その他（自由記述）	3	5%	9	13%
	119		102	

回答数が上位3位までの項目

順位	地域			学校		
	項目	回答数	割合	項目	回答数	割合
1	教職員とCNの情報交換の充実	24	43%	教職員とCNの情報交換の充実	23	32%
2	事業に関する広報（広報誌やWebページ）の充実	15	27%	学校園における活動拠点（地域ルーム等）の設置などの受け入れ体制の充実	16	23%
	地域教育協議会等主催の保護者を対象とした報告会や研修会の充実	15	27%			
3	学校園の教育方針等についての意見交換の機会の充実	14	25%	年間を見通した事業の計画	13	18%

【その他(自由記述)】

〈地域〉

- ・コーディネーターとボランティアの確保。
- ・コーディネーターの時給の向上や地域の理解

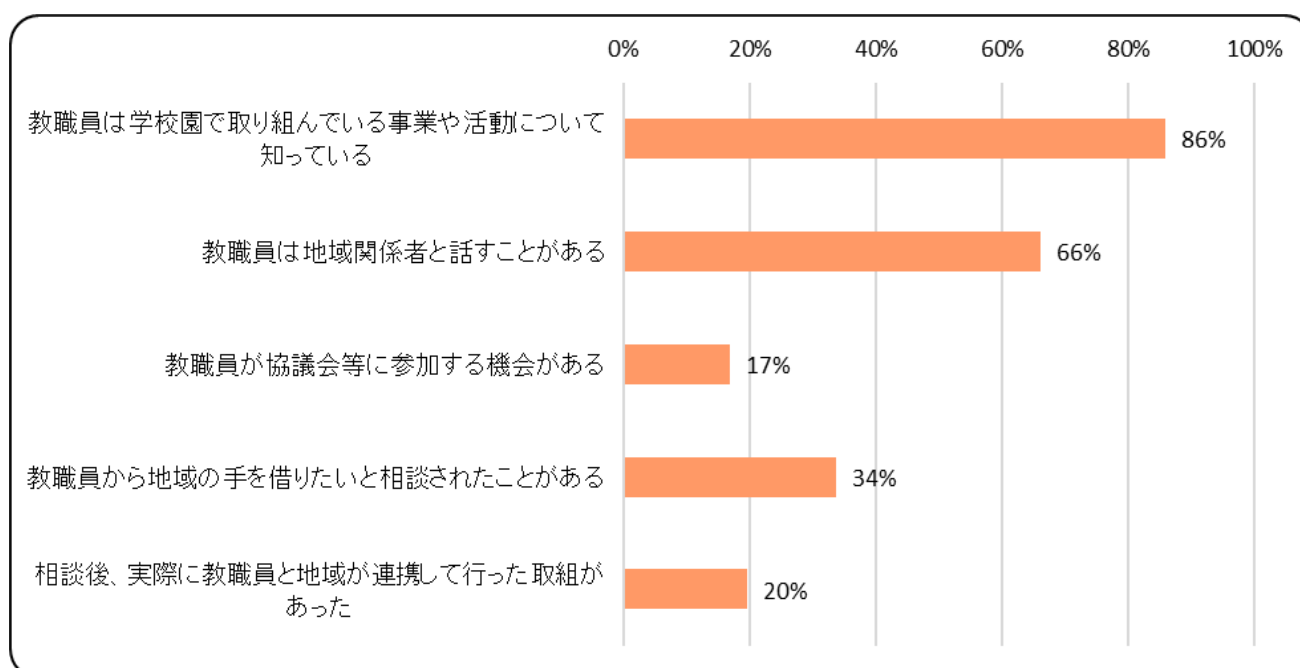
〈学校〉

- ・報告等の簡素化
- ・学校組織の中で、意図的に打ち合わせ等に参加できる体制をつくることも必要かと思われる。
- ・年間を見通した事業の計画、あれもしたいこれもしたい・・・という地域の意見と、働き方改革を進める教職員との考えが一致しない。
- ・教職員とコーディネーターの情報交換の充実、1、2年で交代するのではなく、継続してコーディネーターをしていただける方を見つけること
- ・勤務時間内だけではカバーできない。試算や会計、現金の引き出しや取組のサポート等多岐にわたり学校の負担は非常に大きい。地域教育課を中心としての事業を展開し試案作成や調整などの実働も地域教育課でよいのではないのでしょうか。学校が参加する状態を考えたとしても、あくまでサポートであり、中心を担うのは違うと思います。
- ・教育委員会主催の教員への研修の充実(関係者以外の)
- ・生徒が地域のために何をしたいのかを地域の方と話し合う機会が必要。
- ・専属の人員。小学校は担当が担任兼務のため余力時間がないので教頭がになっていることが多い。さらに欠員補充等のため教頭も席を外すことが多々ある。このような現状の中で上記事項が円滑に進むとは考えにくい。地域との連携を活発にしていきたいが、現場はゆとりがない。書類の簡素化やデジタル化、公金を現金で扱わないなどの対策が十分ではない。(学校は来年度から Google ベースに変わっていきます。ウインドウズマシンも置かれますがそれぞれが別の OS を使うと現場は両方使うことになります。学校教育課と連携を取ってもらってそのあたりもどうすればいいのかを検討願えればと思います。)
- ・年間を見通した事業の計画、協議会事務局の事務量削減、提出書類の簡素化

⑦管理職以外の教職員の事業の認知度について（学校園のみ）（複数回答）

「教職員は学校園で取り組んでいる事業や活動について知っている」という回答が 86%だったことから、学校園での地域教育推進事業の認知度が高いことが見受けられた。

また、「相談後、実際に教職員と地域が連携して行った取組があった」と回答した学校園は 20%と、決して高くはなかったが、家庭科ボランティアや地域学習のゲストティーチャー招聘等、地域人材を活かした取組を行っている例もあった。



学校（回答者数71人）		
項目	回答数	割合
教職員は学校園で取り組んでいる事業や活動について知っている	61	86%
教職員は地域関係者と話すことがある	47	66%
教職員が協議会等に参加する機会がある	12	17%
教職員から地域の手を借りたいと相談されたことがある	24	34%
相談後、実際に教職員と地域が連携して行った取組があった	14	20%

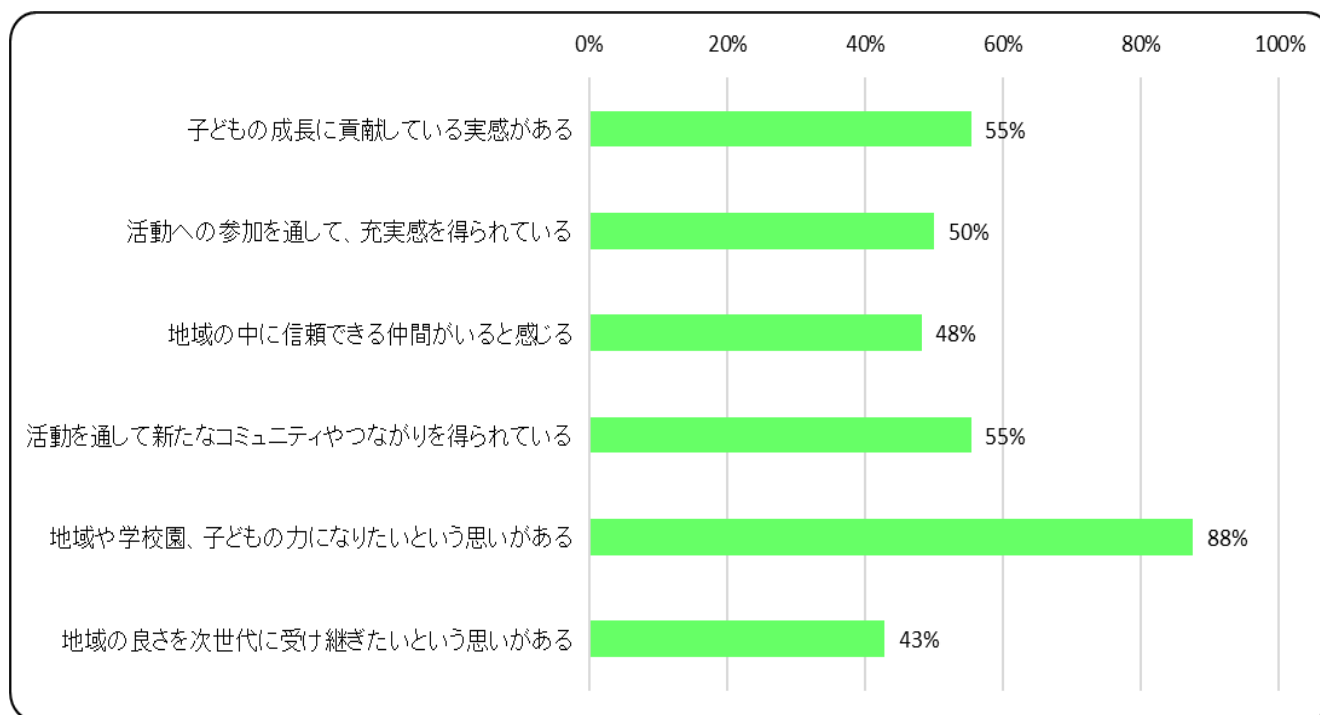
【取組の例】

- ・防災食作り体験、福祉体験学習
- ・救急救命に関わる研修
- ・夏季休業中に地域と教職員の合同研修を実施した。
- ・飛鳥フェスティバル
- ・服のカプロジェクトへの参加の協力と、梱包のお手伝い
- ・マラソン大会交通安全立哨、水泳学習の安全確保
- ・地域の工務店から大工さんにきていただき、図工で使うのぎりの使い方を教えてもらう(4年生)

- ・伝統音楽と楽器の学習(5、6年生)
 - ・図書館の整備
 - ・地域の清掃活動と一緒に参加した。
 - ・家庭科ボランティア 読み聞かせ
 - ・地域の昔の様子や安全の取組について話していただいた。
 - ・地域学習のゲストティーチャー招聘
 - ・三者懇談時の部活動の見守り
 - ・事業に対する教職員への周知を図るため、夏季休業中に地域合同研修を行った。
- 短時間で顔合わせ程度であったが、その後地域の方にボランティアの依頼をするなどつながりができた。
- ・地域の方と共に合同研修を行いました。
 - ・漢字検定の準備、手配、片付けなど。

⑧ やりがいや満足度について（地域のみ）（複数回答）

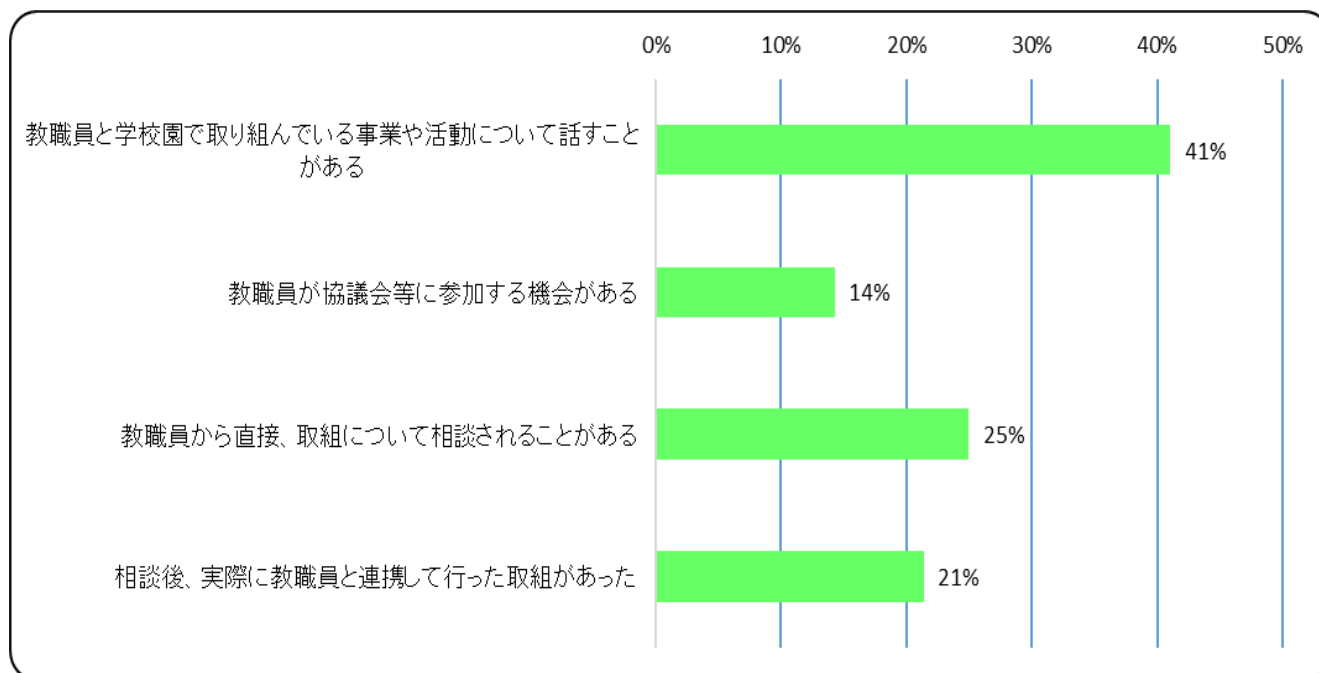
「地域や学校園、子どもの力になりたいという思いがある」の回答（88%）が多く、子どもの力になりたいという思いは強く感じられた。活動から得られる充実感や子どもへの貢献度は半数を占めた。



地域（回答者数56人）		
項目	回答数	割合
子どもの成長に貢献している実感がある	31	55%
活動への参加を通して、充実感を得られている	28	50%
地域の中に信頼できる仲間がいると感じる	27	48%
活動を通して新たなコミュニティやつながりを得られている	31	55%
地域や学校園、子どもの力になりたいという思いがある	49	88%
地域の良さを次世代に受け継ぎたいという思いがある	24	43%

⑨ 管理職以外の教職員との関わりについて（地域のみ）（複数回答）

地域関係者は、「教職員と学校園で取り組んでいる事業や活動について話すことがある」との回答が4割にとどまった。「教職員から直接、取組について相談されることがある」「相談後、実際に教職員と連携して行った取組があった」との回答の割合がほぼ同じことから、相談された取組は実行につながっていると見受けられる。また、取組の例からも、地域と学校園との情報共有の場を設け、具体的な内容で話し合うことの必要性が伺える。



地域（回答者数56人）		
項目	回答数	割合
教職員と学校園で取り組んでいる事業や活動について話すことがある	23	41%
教職員が協議会等に参加する機会がある	8	14%
教職員から直接、取組について相談されることがある	14	25%
相談後、実際に教職員と連携して行った取組があった	12	21%

【取組の例】

【授業支援・学校支援】

- ・家庭科の授業支援
- ・一年生の昔遊びの会を開催するにあたり、一年生の担任団と打ち合わせし、多くの地域の方に来ていただくことができました。その結果、子どもたち、先生方、地域の方々、参加したすべての方から喜びの声をいただきました。
- ・4年生の地域学習の講師を探してほしいとの依頼（結果的には5年生に地元の伝統工芸「赤膚焼」の学習と体験）
- ・2年生の食育（栽培学習）を地元にある「和創」と連携してSDGsの学習（給食の食べ残しを肥料にする）と栽培学習を行う。

- ・今年度の児童や学年の体制に合わせた学習支援
- ・4年生児童の福祉体験学習サポート
- ・1年生児童の昔遊び体験サポート
- ・学習支援 SAS に関しては研究主任、学年主任と密に連携している。
- ・一年生の先生から、子どもたちを公園で遊ばせたいと相談を受けた。保護者ボランティアを募り公園遊びに出かけた。
- ・イモ、イネの栽培について、事前打ち合わせ(学校から教育内容について何を望んでいるかが今一不明、今年度改善目標)

【図書関係】

- ・放課後図書開館
- ・支援学級の生徒との図書ボランティア活動(掲示作業)
- ・授業に沿った資料本を廊下に並べる並行読書はその都度相談され対応します。
- ・図書室の壁面飾りのボランティアから、ステップ教室の装飾のお手伝いをした。

【地域探検】

- ・地域探検について、地区の説明を聞かれた。それについてこの地域は誰に聞いた方が良いと教えた。家にある文献を持って行った。
- ・自分たちの住んでいる町探検を経験し、結果、質問、疑問に関して地域が回答する。

【環境整備】

- ・児童と行った新しい花壇の設計と設置 など
- ・地域との清掃活動

【キャリア教育】

- ・コロナ禍でのキャリア教育について、手段を共に考え教員と話し合いの上無理なくできる方法を模索し、実行できた。以前より行ってきた職場体験を、職場から学校に来ていただく形を取り、職場側の協力のもと教師も共に勉強することが出来て良かったと思います。
- ・中学校のキャリア教育は全面的に学年の教職員と協力し、共通理解をもって取り組み、統括会議にも参加して次年度の方針を共に検討している。

【その他】

- ・ビブリオバトルの実施に関しては国語科の教員と連携できた。
- ・ベルマークの取組は中学校の生活委員会担当教員と年間を通して連携している。
- ・中学校ボランティアルーム(地域ルーム)の様子が職員室からも良く見える位置にあるので、相談等がある先生は訪ねてこられます。

⑩ 今後特に必要と感じる地域教育課の支援について（複数回答）

「事業理解を深めるための研修実施」の支援を求める回答が多いことから、地域で決める学校予算事業、放課後子ども推進事業の本来の事業内容の理解を深めて行く必要がある。また、学校園は、会計処理の実務研修を求める回答が最も多かった。この事業に関わる会計処理を学校が担っている面が顕著に表れた。

項目	地域（回答者数56人）		学校（回答者数71人）	
	回答数	割合	回答数	割合
事業理解を深めるための研修の実施	20	36%	22	31%
会計処理等の実務研修の実施	5	9%	26	37%
事業説明会の実施および充実	7	13%	10	14%
他校区のCNとの情報交換の場の設定	9	16%	8	11%
SNSやホームページによる広報の強化	16	29%	8	11%
助成金等の情報	11	20%	6	8%
その他（自由記述）	7	13%	12	17%
	75		92	

回答数が上位3位までの項目

順位	地域				学校			
	項目	回答数	割合		項目	回答数	割合	
1	事業理解を深めるための研修の実施	20	36%		会計処理等の実務研修の実施	26	37%	
2	SNSやホームページによる広報の強化	16	29%		事業理解を深めるための研修の実施	22	31%	
3	助成金等の情報	11	20%		事業説明会の実施および充実	10	14%	

【その他（自由記述）】

【事務軽減】

- ・事務作業の軽減。（事務作業を減らして、肝心の子供たちのためにできることを増やしたい）
- ・備品を買うのをネット通販やクレジットカードで買えるようにしてほしい。現在は買い物のガソリン代・交通費・時給等なく、現金立て替えで買い物をしています。買い間違いもなくなるし、比較検討しやすく、配達してくれて助かります。
- ・会計処理・事務処理の簡素化
- ・事務処理の補助
- ・書類作成の簡略化。予算流用について柔軟な運用。報償費のみ、課の審査を受けて制限なしで流用可など。
- ・協議会事務簡素化に向けての提言等

【環境整備】

- ・パソコン・スマホ・Wi-Fi等の貸し出し。
- ・専属の人の配置
- ・コーディネーターと学校との連携について

【広報】

- ・広報の支援。
- ・学校に子どものいない家庭、住民と繋がるためにも学校以外への広報をしていただきたい。

【研修】

- ・研修のオンライン化。
- ・教職員に、地域コーディネーターについて、理解してほしい。
- ・学校運営協議会(コミュニティ・スクール)に対する具体的な研修(「こんないいことにつながる」ではなく、実際に何をすべきなのかという所の理解が進んでいない)
- ・コーディネーターの意識が低く、研修に対する意欲のなさを感じる

【人材育成】

- ・地域への事業説明や広報を通して新たな地域人材の発掘をお願いしたいです。

【その他】

- ・もう少し各学校の状況についてしっかり知ってほしい。
- ・地域のおもいが強すぎ、学校のニーズに合致しない場合もある。学校のニーズに応じた支援促進を教育委員会から地域へすすめてほしい。
- ・学校が多くを担う状態からの脱却方法
- ・教員の働き方改善についての取組

⑪ 今後取り組みたい活動やアイデア等について(自由記述)

【体験学習】

- ・他校との交流および体験学習の充実
 - ・収穫した産物の販売
 - ・子ども達が興味をもって、持続できるような遊びの講習
 - ・他団体と学校をつなげるお手伝い
 - ・地域のボランティアさんを巻き込んで、盛り上げていきたいです。
 - ・他団体とは、音楽芸術活動を子どもたちの教育の場に体験として取り組む。
 - ・プロの演奏家たちで、海外在住の友人が活動中なのですが国内にも演奏家がいるので、連携をとり、本場ヨーロッパの音楽を子どもたちへ体験してもらう学びの機会となれば。
- 感染対策の規制が緩和される見込みなので、デイキャンプやあるいは校庭を使って非日常の体験を提供し、子どもたちが自主性を持って活動できるお手伝いを地域の方たちと共に行う。
- ・ポッチャ大会の子ども審判導入に向けて検討したい
 - ・なわとび大会(なわとびリレー)

【図書整備】

- ・来年度から図書整備事業が始まります。

【郷土学習】

- ・世界遺産や理科、英語、福祉の学習等、教職員の負担なく地域の方から本物に触れる学びを新規開拓していきたい。
 - ・富雄丸山古墳を学ぶ史跡散策を企画したい。
 - ・地域、学校、子どもたちが綺麗なサークルが描ける還元型事業を作りたいと常々思う。
- 例えば、当学校区協議会では、歴史ウォーク という企画がある。長年開催しているが、子供達の故郷への想いを深

め、コミュニケーションを高めるためにも、地域ガイドとして活躍できればいいと思う。それには、学校と連携して、学習時間の中で地域の歴史や史跡を調べるカリキュラムを取り入れる必要もあるだろうし、地域連携の時間を作ってもらう必要もある。また、公民館とコラボして、公民館主催のガイド養成講座(仮)を受講したり、学校に招くことも取り入れれば、地域還元事業になると考える。

【その他】

- ・コロナが収束すれば、地域と教員が集まっての熟議の場を持ちたい。
- ・教頭からコーディネーターへの実務移行
- ・「飛鳥探求プログラム」の学習を軌道にのせる。
- ・生徒が、自分の地域を自分たちでよくしたいと思う、生徒主体となる取組
- ・まずは今行っている活動を「地域とのふれあい」をキーワードに再考してみたい。
- ・アフターコロナを見越した取組
- ・まだまだ何もできていないのが現状です。まず、お互いに知り合い、関わり合い、共通の課題を持つところから始めないと何も進まないと思います。お互いに知り合うためにどのような工夫があるのか、これから考えたいと思います。ただ、挫折からの立ち直りができない子供たちが多く、奈良県では、不登校生や高校の中途退学者がとて多いのが現状です。これは、伏見地域に限ったことではないと思います。どのようにしてたくましい子供を育てていくのか、共有していく必要があると思います。
- ・アイデアはたくさんあっても、時間的に手一杯の状態。
- ・単発開催ではなく、月 1 回でも継続して取り組める事業ができたと思う。決められたことではなく、子どもが自由に遊んだり作り上げたりできる場を提供したい。が、場所がない。
- ・小学校・中学校を卒業した高校生や大学生が、地域に戻って気軽に活動できるような体制づくりができたらいいなと思う。お手伝いしたいと思っている卒業生がいるのに、受け入れ態勢ができていなかったらもったいない。

⑫ その他事業に関するご意見

【人材確保】

- ・コーディネーターが機能していない学校と機能している学校との格差が大きすぎる。本校は機能していないので、全て教頭が担っている。なんとかしようと今年度動いていったが、やはり自分の興味のある教室や、自分の子供が参加する教室にしかコーディネーターは出席しないし、実務もやらない。本校の放課後子ども教室は教頭が運営していることになってしまっていて、本来の形となっていない。クレームも教頭にくる。
- ・地域のコーディネーターやボランティアが活動を主導し、学校はそのサポートに回るような学校や校区もあると聞くと、本校区は前述の通り、すべてを学校が主導しなければならない地域性がある。この事業をさらに広げても結局学校・教員の負担増に結びついてしまう。地域予算事業がすべての学校に「働き方改革」をもたらすものではないということを理解していただきたい。

【負担軽減】

- ・教頭の負担が多すぎます。どうにか改善してください。お願いします。
- ・もう少し事業をスリム化するか、学校の職員がいて成り立つ事業ではなく学校のサポートを受けなくても一定の動きができる事業体制を組んでほしい。
- ・提出書類について、データのみにしてほしいです。
- ・予算の執行方法がもう少し緩やかであると、いろいろな面で取り組みやすい。

【地域と学校との連携】

- ・学校と地域が具体的に問題を共有することが必要だと思います。

- ・地域本部を立ち上げ、学校に対する支援を行っていますが、この取組が学校にとっても地域にとっても価値のあるものになっているのかどうか検証する必要があると思います。
 - ・学校支援するために、地域としてどうあるべきか、再度考えてみたいと思います
 - ・放課後教室について学校と連携は取れている。休日の事業に教職員の参加も得られている。
 - ・それ以外にも何かあれば教職員の方からも関りがあるが、もっと学校に対して協力していきたい。
 - ・コロナ禍で学校への出入りが縮小されたことは、保護者や地域の学校理解の機会を減らし、隔たりを生んでいます。感染防止対策は必要ですが、受け入れる学校側が慎重になり過ぎないことを願います。また、先生方と地域住民が協働するには、打ち合わせ、連絡調整等は必須です。それを「教職員の負担増」と思われるのであれば、連携は進められません。児童を真ん中に、どのように育んでいくのかを考えて、同じ方向を向いて学校、先生方と共に歩んでいけたらと思います。
 - ・子どもたちの興味は多岐にわたりますが、それに費やしてあげるだけの、時間と費用が足りてないと感じます。
- 【その他】
- ・奈良市全体の事業に対する理解度を危惧しています。特に一体的推進と言われる部分に関しては教育委員会が方向性を示し、正しい理解を促していくべきだと思います。あまりにお粗末な状況を耳にすることがあります。
 - ・色々な研修や交流会があれば、できるだけ参加したい。
 - ・コミスク、少年指導協議会との連携
 - ・地域支援事業は、子ども達が「ひと・もの・こと」と出会い繋がりをもつことができる事業であるため、今後も大切にしていきたい。
 - ・地域の方々の協力を得て、地域・保護者・園が連携を図りながら、子ども達が様々な体験や経験ができることは、みんなが自分たちのことを見ているという安心感や喜びを感じることができるとともに、子どもの育ちにつながっていると思います。
 - ・様々な事業を通して、地域の方と交流することで、地域に関心を持つことができている。